

第60回 The 60th Congress of the Kinki Physical Therapy Memorial Journal 2021



近畿理学療法学会 記念誌 2021

“いのち輝く未来社会の理学療法デザイン”
～近畿からのイノベーション～

会期

2021年2月7日(日)

会場

グランキューブ大阪 & Web会場
(大阪府立国際会議場)

主催

公益社団法人 日本理学療法士協会 近畿ブロック

担当

公益社団法人 大阪府理学療法士会
一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター

大会長

中川 法一

(増原クリニック、株式会社フルーシオン)

副大会長

熊崎 大輔

(大阪府理学療法士会 会長)

副大会長

千葉 一雄

(大阪府理学療法士会生涯学習センター 理事長)

準備委員長

村西 壽祥

(大阪河崎リハビリテーション大学)

第60回 The 60th Congress of the Kinki Physical Therapy Memorial Journal 2021



近畿理学療法学会 記念誌 2021

“いのち輝く未来社会の理学療法デザイン”
～近畿からのイノベーション～

INDEX

巻 頭 言	1
近畿理学療法学術大会 60 回のあゆみ	2
第 60 回近畿理学療法学術大会	6
第 60 回近畿理学療法学術大会賞	7
理学療法版 SDGs 提言について	9
1. EBP	10
2. 神経	12
3. 運動器	14
4. 痛み	16
5. がん	18
6. 代謝異常〔糖尿病〕	20
7. 嚥下	22
8. スポーツ支援	24
9. 地域〔高齢者への運動療法〕	26
10. 教育	28
11. 小児	30
12. 物理療法	32
13-1. 呼吸	34
13-2. 循環	36
14. 医療福祉工学〔義肢〕	38
15. 精神・心理	40
16. 管理	42
17. 産業	44
近畿理学療法学術大会の展望（各府県士会より）	46
運営組織・委員一覧	52
理学療法版 SDGs 作成委員一覧	53
編集後記	54

巻 頭 言

近畿理学療法学術大会記念誌の 上梓にあたり

第60回近畿理学療法学術大会

大会長 中川 法一



2019年の暮れから始まった COVID-19 による感染拡大は世界中を席卷し、わが国でも自粛生活を強いられる状況が未だに続いています。医療・介護施設や教育機関への影響は甚大であり、働き方そのものが根底から揺るがされる社会情勢の中で「学びを止めない」「未来への学びを創造する」そして「理学療法は近畿から」という強いメッセージを込めて『いのち輝く未来社会の理学療法デザイン ～近畿からのイノベーション～』をテーマに第60回近畿理学療法学術大会を冬晴れの2021年2月7日にグランキューブ大阪（大阪国際会議場）で開催いたしました。会場とオンラインを併用する史上初のハイブリッド開催となり、多少の混乱もありましたが、関係各位のご理解とご協力のもとで成功裏に終えられましたこと、深く感謝を申し上げます。

60回記念大会における企画の真意は、近畿が理学療法界のリーダーとして全国を牽引し、10年後に向けて理学療法士のプレゼンスを高められるような理学療法デザインを提言することでした。各領域のエキスパートのお力を借りながら、17領域の理学療法版 SDGs を公示することができました。知覚動考と申しますように、行動が伴わなくては結果は何も得られません。この理学療法版 SDGs が画餅に終わらぬよう、計画を持ち歩みを止めず検証を加えていくことが使命だと言えます。

本大会の特別企画として記念誌の発刊を創案いたしましたのは、長い歴史をもつ学術大会ですが、その軌轍を一元的に記録されたものがないという事実直面したからです。そこで近畿圏の各士会様にはご面倒をお掛けすることになりましたが、担当開催時の情報提供をご依頼させていただき、本大会の準備委員会にて集約作業をさせていただきました。55年間という長きに渡り常設の事務局機能を持たない2府4県での持ち回り開催という学会の性格上、情報がやや断片的であったり希薄な部分もございましたが何とか整理をさせていただきました。近畿学会におけるマイルストーンとしての役割は果たせたかと自負しており、未来への学びを創造する一助としてご活用いただければと思います。

さて、記念誌編纂を進める中で1つの謎が浮上し、解明もいたしました。わが国に理学療法士が誕生して未だ55年しか経っていないのに本学術大会は60回を迎えたわけで、どうにも計算が合わない。実に60回を数えるのですが還暦ではなかったのです。第1回が開催されたのが1966年ですが、1973年までの8年間で実に13回の学会が開催されています。1974年の大阪開催から、年1回開催が定着し、今年で第60回を迎えたという事です。他のブロック学会の開催が、おおよそ40回程度であることを考えますと、近畿が群を抜いて多い回数となっています。このことは礎を築いてくださった先人たちが、誰よりも向学心向上心が高く、何処よりも団結力も高かったということをうかがい知ることができ、今を生きる私たちにとって、未来に躍動する理学療法士にとって大きな財産です。この財産を後盾に府民県民のために忘己利他の精神でしのぎを削るがごとく研究成果を公表し、その叡智を結集して近畿ブロック会員が全国の牽引者となっていきたい、そんな期待を膨らませております。

末筆になりましたが、順調に回を重ねることができましたら、10年後の70回大会は奈良県理学療法士協会のご担当となる予定です。大変に僭越ではございますが、第60回大会で掲げいたしました理学療法版 SDGs の検証を切にお願い申し上げますとともに、今後の近畿理学療法学術大会の益々の発展を祈念しまして、学会準備委員会を代表し上梓の辞とさせていただきます。

近畿理学療法学術大会 60回のあゆみ

近畿学会	テーマおよび講演	開催 府県	開催年度	開催 年月日	大会長 (準備委員長)	演題 発表数	参加者数／備考／ISSN
第1回 近畿理学療法士・ 作業療法士集談会	「脳卒中の機能評価について」 武富 由雄 「本院における片麻痺患者の統計的考察」 坂本 隆弘	大阪	昭和41年度 (1966年度)	1966年 8月	岩本 敬	3	22名(PT21、OT1) PT・OT 共同開催、担当府県はなく合同で開催された。会場は国立大阪病院(協会ニュースより)
第2回 近畿集談会	脊損 「脊損患者の床上訓練について」 安井 平吉 「第1回日本理学療法士学会(東京)の報告」 参加者より	大阪	昭和41年度 (1966年度)	1966年 11月	坂本 隆弘	1	22名(PT21、OT1)有資格者33名中22名 会場は大阪労災病院(日本理学療法士協会10年史・大阪府理学療法士会15年史より)
第3回 近畿集談会	股関節 「股関節形成術」 石丸 清 「医学的リハビリテーションから職業的リハビリテーションの移行時の評価とその方法について」 三津井 敏幸	大阪	昭和41年度 (1966年度)	1967年 2月		2	22名(PT21、OT1) 会場は大阪厚生年金病院 (大阪府理学療法士会15年史より)
第4回 近畿集談会	「腰痛症に対する 笑気応用下運動療法について」 春谷 誠一	和歌山	昭和42年度 (1967年度)	1967年 4月		1	会場は和歌山県立医科大学附属病院。5月近畿理学療法士協会と名称を改め、岩本敬初代会長(大阪府理学療法士会20年史より) 兵庫県理学療法士会が全国で最初の地方組織として設立(協会HPより)
第5回 近畿集談会	「脳卒中片麻痺グループ訓練について」 奥谷 清代司 「頸椎牽引について」 成田 厚雄 「WCPT 総会(メルボルン)報告」 武富 由雄	大阪	昭和42年度 (1967年度)	1967年 8月		2	50名(PT48、OT2) 会場は大阪府立盲学校 (大阪府理学療法士会15年史より)
第6回 近畿集談会	「内反足について」 岡本 征也 「頸椎捻挫後遺症に対する治療体操」 宮風 隆夫 「脳卒中後片麻痺患者の上肢に対するリハビリテーションの一考察」 須藤 泰二郎	京都	昭和42年度 (1967年度)	1967年 10月		3	会場は京都大学医学部附属病院 (大阪府理学療法士会15年史より)
第7回 近畿集談会	「歩行不能を訴えた患者の一症例」 佐野 了 「先天的胸部奇形の理学療法の一症例」 井上 三郎 特別講演「腰痛について」 小野 啓郎	大阪	昭和42年度 (1967年度)	1967年 12月	武富 由雄	3	会場は大阪大学医学部附属病院恵濟団講堂 (大阪府理学療法士会15年史より)
第8回 近畿集談会		和歌山	昭和42年度 (1967年度)	1968年 3月		3	会場は琴の浦リハビリテーションセンター この年、近畿の理学療法士71名、作業療法士2名となる(大阪府理学療法士会20年史より)
第9回 近畿集談会	「片麻痺」	大阪	昭和43年度 (1968年度)	1968年 12月			9月 近畿集談会誌が創刊された 会場は大阪市立大学(大阪府理学療法士会15年史、20年史より)
第10回 近畿集談会							
第11回 近畿集談会	「Positioning について」 山本 和儀 「SMONのリハビリテーションについて」 山陰 信夫 「片麻痺の下肢に対する治療体操」 須藤 泰二郎	大阪	昭和44年度 (1969年度)	1969年 9月		3	会場は大阪府立青少年会館 (大阪府理学療法士会15年史より)
第12回 近畿集談会	「アメリカのリハビリテーション」 久留 繁 「片麻痺の肩関節について」 武富 由雄 特別講演「スポーツ外傷について」 小杉 豊治	大阪	昭和44年度 (1969年度)	1969年 11月		2	会場は大阪府立病院 (大阪府理学療法士会15年史より)
第13回 近畿集談会							昭和45年6月 近畿理学療法士協会が発展的に解散し、各府県士会が独立
第14回 近畿理学療法士集談会	特別講演 「ミクロの世界から動きまで」 博田 節夫	大阪	昭和49年度 (1974年度)	1974年 9月		2	近畿理学療法士集談会が5年ぶりに再開 この回から年1回の開催 (大阪府理学療法士会15年史より)
第15回 近畿理学療法士集談会	特別講演 「下腿骨折の保存療法～PTB Braceについて～」 櫻井 修 「リハビリテーション工学概論」 中村 幸夫	兵庫	昭和50年度 (1975年度)	1975年 11月			会場は兵庫医科大学病院 (大阪府理学療法士会20年史より)
第16回 近畿理学療法士集談会		大阪	昭和51年度 (1976年度)	1976年 11月			会場は大阪大学医学部附属病院 (大阪府理学療法士会20年史より)
第17回 近畿理学療法士集談会		京都	昭和52年度 (1977年度)	1977年 10月			大阪府理学療法士会20年史より
第18回 近畿理学療法士集談会		大阪	昭和53年度 (1978年度)	1978年 10月			大阪府理学療法士会20年史より
第19回 近畿理学療法士集談会	I : PTの明日を考える II : ファシリテーションテクニックの適応と限界	兵庫	昭和54年度 (1979年度)	1979年 11月18日			大阪府理学療法士会20年史より
第20回 近畿理学療法士集談会		和歌山	昭和55年度 (1980年度)	1980年 11月1日	萩野 周一 (椎原 敏昭)	14	
第21回 近畿理学療法士学会		滋賀	昭和56年度 (1981年度)	1982年 2月1日	砂川 勇 (今井 至)	16	この回から学会に改称され、近畿2府4県が輪番制となる

近畿学会	テーマおよび講演	開催 府県	開催年度	開催 年月日	大会長 (準備委員長)	演題 発表数	参加者数／備考／ISSN
第22回 近畿理学療法士学会		奈良	昭和57年度 (1982年度)	1982年 11月14日	川村 邦男 (門脇 明仁)	21	209名
第23回 近畿理学療法士学会		京都	昭和58年度 (1983年度)	1983年 11月1日	宮風 隆夫 (中島 靖夫)	27	
第24回 近畿理学療法士学会		大阪	昭和59年度 (1984年度)	1984年 11月18日	首藤 茂香 (紀伊 克昌)	28	
第25回 近畿理学療法士学会		兵庫	昭和60年度 (1985年度)	1985年 11月17日	山下 隆昭 (吉尾 雅春)	26	
第26回 近畿理学療法士学会		和歌山	昭和61年度 (1986年度)	1986年 11月30日	木下 賢治 (江口 英範)	27	
第27回 近畿理学療法士学会		滋賀	昭和62年度 (1987年度)	1987年 11月8日	砂川 勇 (今井 至)	35	
第28回 近畿理学療法士学会		奈良	昭和63年度 (1988年度)	1988年 11月6日	川村 邦男 (金田 修三)	38	
第29回 近畿理学療法士学会		京都	平成元年度 (1989年度)	1989年 11月3日	渡辺 隆 (森永 敏博)	36	
第30回 近畿理学療法士学会		大阪	平成2年度 (1990年度)	1990年 11月11日	西本 東彦	33	
第31回 近畿理学療法士学会	PTの明日を考える Part II	兵庫	平成3年度 (1991年度)	1991年 11月10日	山下 隆昭 (篠原 英紀)	36	
第32回 近畿理学療法士学会		滋賀	平成4年度 (1992年度)	1992年 11月15日	砂川 勇 (今井 至)	41	351名
第33回 近畿理学療法士学会	理学療法の現状と今後の課題 「理学療法の現状と今後の課題」 半田 一登	和歌山	平成5年度 (1993年度)	1993年 11月14日	木下 賢治 (林 積司)	39	370名
第34回 近畿理学療法士学会		奈良	平成6年度 (1994年度)	1994年 11月13日	門脇 明仁 (仲川 安弘)	49	590名
第35回 近畿理学療法士学会	特別講演 「手足の発達と機能分化」 上羽 康夫	京都	平成7年度 (1995年度)	1995年 11月26日	森永 敏博 (黒木 裕士)	48	この回から ISSN 記載 (ISSN 0919-6668) (近畿理学療法士学会誌 25号より)
第36回 近畿理学療法士学会		大阪	平成8年度 (1996年度)	1996年 11月23日	紀伊 克昌 (上田 陽之)	53	(ISSN 0919-6668)
第37回 近畿理学療法士学会	特別講演Ⅰ 「慢性関節リウマチの脊椎病変」 西林 保朗 特別講演Ⅱ 「筋の運動学とトレーニング」 市橋 則明	兵庫	平成9年度 (1997年度)	1997年 11月16日	八木 範彦	—	(近畿理学療法士学会誌第27号より) (ISSN 0919-6668)
第38回 近畿理学療法士学会	特別講演 「アフオーダンスと運動について」 佐々木 正人、富田 昌夫	和歌山	平成10年度 (1998年度)	1998年 11月15日	木下 賢治 (林 積司)	—	(近畿理学療法士学会誌第28号より)
第39回 近畿理学療法士学会	特別講演 「力学的臨床運動療法」 福井 勉	滋賀	平成11年度 (1999年度)	1999年 11月21日	今井 至 (並河 孝)	38	(ISSN 0919-6668) (近畿理学療法士学会誌第29号より)
第40回 近畿理学療法士学会	20世紀の足跡と21世紀の展開	奈良	平成12年度 (2000年度)	2000年 11月26日	門脇 明仁 (大西 竜哉)	31	(ISSN 0919-6668)
第41回 近畿理学療法学会集	イブニングセミナー 「非外傷性肩関節障害症例に対する理学療法 ～評価を中心として～」 山口 光圀 「パーキンソン病の理学療法」 増本 正太郎 「高齢者における体力評価」 木村 みさか	京都	平成13年度 (2001年度)	2001年 11月11日	森永 敏博 (市橋 則明)	51	1,000名越 (ISSN 1346-9339) (近畿理学療法学会誌第31号より)
第42回 近畿理学療法学会集	これからのリハビリテーション医療の進む道 ～医療制度改革と診療報酬改定の意味するものは～	大阪	平成14年度 (2002年度)	2002年 11月24日	上田 陽之 (大橋 知行)	29	907名 (ISSN 1346-9339)
第43回 近畿理学療法学会集	疾患・障害予防と理学療法	兵庫	平成15年度 (2003年度)	2003年 12月7日	八木 範彦 (米田 稔彦)	54	1,115名 (ISSN 1346-9339)
第44回 近畿理学療法学会集	日本人の身体感 特別講演「日本人の身体感」 養老 孟司	和歌山	平成16年度 (2004年度)	2004年 11月28日	高田 常一 (上西 啓裕)	60	1,082名(スタッフ含) (ISSN 1346-9339)
第45回 近畿理学療法学会集	地域リハビリテーションへの理学療法の展開	滋賀	平成17年度 (2005年度)	2005年 11月27日	並河 孝 (田中 和彦)	63	846名 (ISSN 1346-9339)
第46回 近畿理学療法学会大会	理学療法士を活かす ～人を支えるコミュニケーションスキル～	奈良	平成18年度 (2006年度)	2006年 11月26日	尾崎 文彦 (石橋 睦仁)	84	1,060名 (ISSN 1881-6975)
第47回 近畿理学療法学会大会	筋機能を科学する	京都	平成19年度 (2007年度)	2007年 11月11日	市橋 則明 (玉木 彰)	115	1,995名 (ISSN 1881-6975)

近畿学会	テーマおよび講演	開催 府県	開催年度	開催 年月日	大会長 (準備委員長)	演題 発表数	参加者数／備考／ISSN
第48回 近畿理学療法学会大会	理学療法の再構築 ～新健康フロンティア戦略への参画～	大阪	平成20年度 (2008年度)	2008年 11月2日	西村 敦 (小柳 磨毅)	109	(ISSN 1881-6975)
第49回 近畿理学療法学会大会	理学療法士の明日を考える PART Ⅲ	兵庫	平成21年度 (2009年度)	2009年 11月22日	梶平 司 (鮫島 一雄)	112	2,165名(スタッフ含) (ISSN 1881-6975)
第50回 近畿理学療法学会大会	理学療法における臨床・基礎医学 ～最新の知見とその臨床応用～	和歌山	平成22年度 (2010年度)	2010年 11月21日	中前 和則 (上西 啓裕)	119	1,515名(スタッフ含) (ISSN 1881-6975)
第51回 近畿理学療法学会大会	理学療法の核 ～臨床実践から学ぶスピリッツ～	滋賀	平成23年度 (2011年度)	2011年 11月13日	本白水 博 (前川 昭次)	113	学術大会誌 CD-ROM (ISSN 1881-6975)
第52回 近畿理学療法学会大会	理学療法士の自覚 ～期待に応えられる知識と技術と人間性～	奈良	平成24年度 (2012年度)	2012年 11月11日	尾崎 文彦 (石橋 睦仁)	122	1,087名 (ISSN 1881-6975)
第53回 近畿理学療法学会大会	メカニカルストレスと理学療法	京都	平成25年度 (2013年度)	2013年 11月3日	黒木 裕士 (石井 光昭)	134	1,695名 (ISSN 2186-4659)
第54回 近畿理学療法学会大会	治療としての理学療法	大阪	平成26年度 (2014年度)	2014年 11月3日	大工谷 新一 (尾谷 寛隆)	113	
第55回 近畿理学療法学会大会	プロフェッション！新たなステージの検証 ～理学療法士が担うべきもの～	兵庫	平成27年度 (2015年度)	2015年 11月21・ 22日	岩井 信彦 (間瀬 敦史)	119	(ISSN 2186-4659)
第56回 近畿理学療法学会大会	医療・介護あらゆる分野でその潜在性を探る	和歌山	平成28年度 (2016年度)	2016年 11月26・ 27日	上西 啓裕 (小池 有美)	146	1,357名(スタッフ含) (ISSN 2186-4659)
第57回 近畿理学療法学会大会	包括化するシステムの中であるべき理学療法士像 ～急性期から介護まで～	滋賀	平成29年度 (2017年度)	2017年 11月12日	前川 昭次 (宇於崎 孝)	135	学術大会誌 Web 公開
第58回 近畿理学療法学会大会	理学療法士の実践力 ～これから求められる実践力と課題～	奈良	平成30年度 (2018年度)	2019年 1月20日	石橋 睦仁 (増田 崇)	142	1,578名
第59回 近畿理学療法学会大会	近未来への道標	京都	令和元年度 (2019年度)	—	石井 光昭 (中本 隆幸)	—	COVID-19感染拡大防止のため中止 学術大会誌廃止
第60回 近畿理学療法学会大会	いのち輝く未来社会の理学療法デザイン ～近畿からのイノベーション～	大阪	令和2年度 (2020年度)	2021年 2月7日	中川 法一 (村西 壽祥)	89	1,209名(現地168名・Web 1,041名) 会場とWebのハイブリッド開催 プログラム集廃止、抄録集PDF、記念誌発刊 近畿理学療法学会大会賞創設 (最優秀賞1名、優秀賞4名、奨励賞3名)

第60回を迎えた近畿理学療法学会大会の記念すべき第1回目は国内に理学療法士が誕生した54年前の昭和41年度(1966年度)に第1回近畿理学療法士・作業療法士集談会として国立大阪病院(現・大阪医療センター)にて開催されました。翌昭和42年度(1967年度)には近畿理学療法士協会を設立し岩本敬氏が初代会長に就任されました。同年、兵庫県理学療法士会が全国で最初の地方組織として設立しました。昭和43年度(1968年度)第9回より近畿集談会誌が創刊・発行されました。昭和45年度(1970年度)に近畿理学療法士協会が発展的に解散し各府県士会が独立しました。13回目までは年に数回実施され、昭和49年度(1974年度)5年ぶりに第14回近畿理学療法士集談会として再開し、以降年1回の開催となりました。昭和56年度(1982年度)第21回より近畿理学療法士学会と改称され、現行の近畿2府4県の輪番制となりました。平成7年度(1995年度)第35回近畿理学療法士学会の学会誌25号よりISSNが登録されました。平成13年度(2001年度)第41回より近畿理学療法学会集会和改称され参加者が1,000名規模となりました。平成18年度(2006年度)第46回より近畿理学療法学会大会に改称されました。令和元年度(2019年度)COVID-19感染拡大防止のため中止となり、令和2年度(2020年度)初の現地・Webのハイブリッド開催となり近畿理学療法学会大会賞が創設され最優秀賞1名・優秀賞4名・奨励賞1名が表彰されました。

貴重な情報をご提供いただきました滋賀県・奈良県・京都府・大阪府・兵庫県・和歌山県の理学療法士会関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

第60回近畿理学療法学会大会

学会誌編集部・記念誌特別委員 桂 大輔 水谷 美和

編集後記

近畿理学療法学術大会は1966年に前身である近畿理学療法士・作業療法士集談会から始まり、60回を迎えることとなりました。「理学療法は近畿から」という先人の気概に倣い、「いのち輝く未来社会の理学療法デザイン ～近畿からのイノベーション～」を大会テーマに掲げました。先の見えないコロナ禍により59回大会が本大会史上初めてとなる無念の中止を決断されたことを受け、中川法一大会長の力強い「理が非でも開催」という宣言のもと、準備委員一同開催に向け尽力し60回続く中で初となるハイブリッド形式にて開催することができました。

今大会のキービジュアルである太陽の塔は「過去・現在・未来」を象徴する3つの顔を持っています。60回を節目として今大会を記念大会と位置づけ、60回のあゆみから過去を知り、現在の課題と10年後の未来の目標を理学療法版SDGs提言としてまとめ、近畿2府4県士会より近畿理学療法学術大会の展望をご寄稿いただき記念誌という形で初めて発刊することになりました。近畿理学療法学術大会賞も創設され受賞演題についても掲載をさせていただくことができました。近畿2府4県士会関係者の皆様そしてSDGs提言アドバイザーの先生方のご厚情のもと短い準備期間の中で発刊まで辿り着けましたこと心より御礼申し上げます。

一方、本家SDGs17領域の中でジェンダー(女性の平等な参画と能力開花)と教育(生涯学習の促進)は我々理学療法業界にとっても大切な目標の2領域であると感じています。世界の理学療法士の63%は女性であり、World Physio2021学会の演題採択の60%が女性です。日本の理学療法士の39%が女性であり、今大会の演題採択の女性の割合は21%でした。

10年後の未来に理学療法版SDGsを達成するためには、性別に関係なくすべての理学療法士の生涯学習へのさらなる参画により、我々理学療法業界全体の能力を開花し続けることが必要不可欠であると思います。

今後も近畿2府4県士会のさらなるご発展を祈念し、府県民の皆様のいのち輝く未来社会に貢献できることが私たち理学療法士のいのちも輝き続けることができるデザインなのではないでしょうか。ご寄稿いただきました展望を拝読し近畿理学療法学術大会がさらに発展していくことを確信しております。

第60回近畿理学療法学術大会

学会誌編集部 部長・記念誌特別委員 増井 健二

第60回 近畿理学療法学術大会 記念誌

発行日：令和3年3月31日発行

発行責任者：大会長 中川 法一

編集・発行：第60回近畿理学療法学術大会 学会準備委員会

(担当：公益社団法人大阪府理学療法士会、一般社団法人 大阪府理学療法士生涯学習センター)

〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-4-12 常盤セントラルビル301号

TEL：06-6942-7233 FAX：06-6942-7211 E-mail：kinki60@pt-osk.or.jp

出版：株式会社セカンド <https://secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025



(担当：公益社団法人大阪府理学療法士会、一般社団法人大阪府理学療法士会生涯学習センター)